

令和7年度（大学・大学院）自己点検・評価報告書

学校種	基準	点検・評価項目	評価の視点	第一段階評価 (各学部・研究科の評価)			第二段階評価 (自己点検・評価委員の評価)			第三段階評価 (外部評価委員の評価)	現状と課題等		
				評価	10学部	4研究科	評価	10学部	4研究科				
大学・大学院	教育・学習	学位授与方針に明示した学生の学習成果の適切な把握及び評価	①学習成果の把握・評価する目的や指標、方法等について考えの明確性	a 全く問題なし	5学部	3研究科	適切である	9学部	2研究科	自己点検・評価の結果については、取組そのものに対する評価と、報告書の記載内容や根拠資料等の形式面に対する評価が明確に区別されるよう、評価の趣旨や内容を分かりやすく示すことが望ましい。さらに、外部評価の結果を学内で共有し、他学部・他学科の優れた取組や指摘事項を相互に学ぶ機会とすることで、各組織における改善や新たな取組の契機につなげていくことが期待される。	常葉大学コモンルーブリックを活用し、学修成果の可視化に関する調査を実施している。また、学生便覧、規程WEBサイト（常葉大学学則、カリキュラムおよび卒業要件単位）、Web掲示板、カリキュラムツリー等を通じて、学修成果の把握・評価の目的、指標および方法について学生・教職員に周知している。		
				b 概ね問題なし	5学部	0研究科							
				d 大いに問題あり	0学部	0研究科	適切でない	1学部	2研究科				
			②指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用性	a 全く問題なし	1学部	3研究科	適切である	6学部	1研究科			ディプロマ・ポリシー（どのような能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与するかを定めた基本的な方針）の理解度・達成度調査により学修成果を把握したり、科目進度と学年ごとの到達目標を明示するとともに、常葉大学コモンルーブリックにより学修成果を把握している。令和7年度のFD研修会では学業不振者をテーマに事例検討を行い学修支援の議論を行った。今後の課題は、不十分である学修成果評価の活用について、教務課と連携し活用の推進を図る。	
				b 概ね問題なし	9学部	0研究科							
				c やや問題あり	0学部	0研究科	適切でない (主に記載内容と根拠資料との対応が不十分等)	4学部	3研究科				
		d 大いに問題あり	0学部	1研究科									
		教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けての取組	①教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確性	a 全く問題なし	2学部	2研究科	適切である	7学部	3研究科		研究科独自の学生アンケートや学生との懇談会を通じて、教育課程および教育内容・方法の適切性について点検・評価を行っている。また、FD研修では他研究科・他学部の教員との交流・連携を通じて研究の幅を広げ、教員の専門性向上を図るとともに、それを大学院教育の授業力向上や授業内容の充実につなげている。研修では活発な意見交換が行われ、教育改善に資する取組となった。		
				b 概ね問題なし	7学部	2研究科							
				c やや問題あり	1学部	0研究科	適切でない (主に記載内容と根拠資料との対応が不十分等)	3学部	1研究科				
				d 大いに問題あり	0学部	0研究科							
			②外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫	a 全く問題なし	0学部	2研究科	適切である	7学部	3研究科				
				b 概ね問題なし	9学部	1研究科							
		学生の受け入れ	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づく適正な管理	①学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合の対策	a 全く問題なし	2学部	1研究科	適切である	7学部		2研究科		学部の教育内容を高校へ周知するため、ガイドブックや大学紹介、学部紹介動画・チラシの作成、オープンキャンパスの実施、高校への講師派遣や高校訪問などの取組を行っている。さらに、「トコトコの森」や学部Instagramの運営、子育て支援プロジェクト、卒業生と在学生のお話会などを企画・実施し、在学生が主体となっており学部独自の学びを発信している
					b 概ね問題なし	8学部	3研究科						
	c やや問題あり				0学部	0研究科	適切でない	3学部	2研究科				
	d 大いに問題あり				0学部	0研究科							
	学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けての取組		①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題の適切な把握	a 全く問題なし	3学部	3研究科	適切である	8学部	3研究科		募集の厳しい研究科の取組として、令和元年度から教員のリカレント教育に着目し、令和2年度の院生募集ではそれに対応した教育内容の広報を行った結果、現任教員の院生を獲得したため、その取組を継続している。しかし、令和5年度および6年度は新規院生を獲得できなかったことから、入試委員会で検討を行い、令和7年度は教員に加え地元企業に勤務する社会人のリカレント教育の需要の掘り起こしを課題とした。令和8年度に向けて、広報・募集の取組を継続している。		
				b 概ね問題なし	6学部	1研究科							
				c やや問題あり	1学部	0研究科	適切でない (主に記載内容と根拠資料との対応が不十分等)	2学部	1研究科				
				d 大いに問題あり	0学部	0研究科							
	学生募集の強化と高大連携の推進		18歳人口減少に対応した学生確保対策の推進		a 全く問題なし	10学部	3研究科	適切である	8学部	3研究科		高校訪問や進路ガイダンスへの参加に加え、進学の参考としてオープンキャンパスの影響が大きいことを踏まえ、在学生参加型のオープンキャンパスを実施した。また、学科の学びを生かすための広報活動（例：保育健康学科のこども村など）を展開した。これらの成果として、10月入試までの手続見込率は各学科で概ね高い水準となっている。今後も学生主体の活動を通じ、学部の魅力発信と学生確保を推進していく。	
					b 概ね問題なし	0学部	0研究科						
					c やや問題あり	0学部	0研究科	適切でない (主に記載内容と根拠資料との対応が不十分等)	2学部	1研究科			
					d 大いに問題あり	0学部	1研究科						
		附属高校入試の実施を通して、高大接続教育の推進		a 全く問題なし	9学部	研究科なし	適切である	10学部	研究科なし		高大連携活動として「探究学習に関する中高大連携活動」に教員を派遣している。例えば、保健医療学部では、令和7年度は学科教員が5つの専門分野に関する講座を提案した。また、毎年、常葉高校の高大連携講座（医療系）において学科教員が模擬授業を実施し、高校2年生に理学療法の実践を紹介している。これにより医療系分野への理解を深めるとともに、進学に対するモチベーション向上を図っている。		
				b 概ね問題なし	0学部								
c やや問題あり				0学部	適切でない		0学部						
d 大いに問題あり				1学部									

令和7年度（短大）自己点検・評価報告書

学校種	基準	点検・評価項目	評価の視点	第一段階評価 (各科の評価)		第二段階評価 (自己点検・評価委員の評価)		第三段階評価 (外部評価委員の評価)	現状と課題等
				評価	3科	評価	3科		
短大	教育課程と学生支援	学習成果の獲得状況の公表		a 全く問題なし	2科	適切である	3科	自己点検・評価の結果については、取組そのものに対する評価と、報告書の記載内容や根拠資料等の形式面に対する評価が明確に区別されるよう、評価の趣旨や内容を分かりやすく示すことが望ましい。さらに、外部評価の結果を学内で共有し、他学部・他学科の優れた取組や指摘事項を相互に学ぶ機会とすることで、各組織における改善や新たな取組の契機につなげていくことが期待される。	ディプロマポリシー（どのような能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与するかを定めた基本的な方針）に直結する2年次必修科目「卒業研究」の成果をデータ化し、ホームページで公表するとともに、学生の小説・短歌等の受賞実績をに冊子に纏めて紹介するなど、学生の学術的・創作的成果を社会に発信している。その他、履修カルテをもとに各学期および実習ごとの自己評価を数値化し、個別シートとして可視化するとともに、学生向けポータルサイト（UNIPA）を通じて学生へフィードバックを行うなど、学習成果を継続的に把握・共有する体制を整えている。
				b 概ね問題なし	0科		0科		
				c やや問題あり	0科	適切でない	0科		
				d 大いに問題あり (当該科は募集停止に伴い、評価対象外)	1科				
	学生の受け入れ	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づく適正な管理	①短期大学士課程全体及び各学科並びに各専攻科の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合の対策	a 全く問題なし	0科	適切である	2科		日文科では、定員未充足を踏まえ、令和8年度からは定員を65名から50名へ削減するとともに、オープンキャンパスを5・7・8月に集約し、高校生を集中させることで募集活動の活性化を図っている。保育科においても、令和8年度からは定員を150名から75名とし、定員充足に向けた適正な管理へ向けて見直しを図っている。音楽科は、募集停止のため、特段の取組等は実施していない。
				b 概ね問題なし	2科				
				c やや問題あり	0科	適切でない	1科		
				d 大いに問題あり (当該科は募集停止に伴い、評価対象外)	1科				
		学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けての取組	①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題の適切な把握	a 全く問題なし	0科	適切である	3科		入試種別ごとの志願者数や入学状況を踏まえ、学科会議において定期的に点検・評価している。令和8年度入試からの定員削減に伴い、各入試の合格者数の見直しを行い、「総合能力入試（高大接続型）」の割合を拡大する方針とした。近年は多様な配慮を要する学生の増加を踏まえ、学科として受け入れ可能な範囲について継続的に議論している。また、附属高校からの入学者減少を課題として共有するとともに、通信制高校との連携強化についても検討している。
				b 概ね問題なし	2科		0科		
				c やや問題あり	0科	適切でない			
				d 大いに問題あり (当該科は募集停止に伴い、評価対象外)	1科				
		②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上への効果的な取組		a 全く問題なし	2科	適切である	3科		附属高校からの進学者減少に対応するため、進学実績が伸びている高校への働きかけを強化した。出前授業への積極的対応や探究活動発表会の視察、高校生ボランティア機会の創出、指定校推薦枠の見直しなどを通じて高校との連携を深め、ニーズ把握と学生確保に努めている。また、進学者増加への対応として学生情報共有を重視し、1年次科目を活用した適応支援を強化した結果、退学者は2名にとどまった。今後は指導担当教員制の効果的な運用が課題である。
				b 概ね問題なし	0科		0科		
				c やや問題あり	0科	適切でない			
				d 大いに問題あり (当該科は募集停止に伴い、評価対象外)	1科				
	学生募集の強化と高大連携の推進	18歳人口減少に対応した学生確保対策の推進		a 全く問題なし	2科	適切である	3科		入学センターと連携し、出前授業の実施、卒業生出演のTVミニ番組にて学生確保対策を推進した。また、総合能力入試に係る高大接続活動をオープンキャンパスと同日開催することで、高校3年生の受験機会を確保するとともに、高校1～2年生にも公開して進学方法の理解を促し、学生募集と高大連携の推進につなげた。
				b 概ね問題なし	0科				
				c やや問題あり	0科	適切でない	0科		
				d 大いに問題あり (当該科は募集停止に伴い、評価対象外)	1科				
		附属高校入試の実施を通して、高大接続教育の推進		a 全く問題なし	2科	適切である	3科		高校の探究学習支援として講座を開設して、保育分野の探究ニーズに対応している。また、附属常葉高校との高大連携では、「遊びを中心とした保育」を体系的に学が授業を高校教員と共同で設計し、修教教員が協力して実施している。さらに、中学校・高校の探究授業への協力やインタビュー対応などを通じて地域の探究活動を支援しており、継続的な高大連携・地域連携の成果が見られている。
				b 概ね問題なし	0科				
				c やや問題あり	0科	0	0科		
				d 大いに問題あり (当該科は募集停止に伴い、評価対象外)	1科				

■令和7年度自己点検・評価委員名簿（学内）

「大学」

No.	氏 名	役職等
1	安武 伸朗	学長
2	安藤 雅之	学長特命補佐
3	小田 寛人	学長特命補佐
4	阿部 郁男	副学長（静岡）
5	出口 憲	副学長（静岡）
6	伊東 明子	副学長（静岡）
7	磯貝 香	副学長（浜松）
8	吉田 哲也	教務部長
9	那珂 元	学生部長
10	佐藤 友紀	静岡理学療法学科長 （学長指名）
11	大石 哲也	大学・短大本部事務局長
12	野中 繭	キャンパス事務局長 （草薙・瀬名）
13	林 啓子	法人本部事務局長

「短大」

No.	氏 名	役職等
1	安武 伸朗	学長
2	小田 寛人	学長特命補佐
3	宮本 淳子	日本語日本文学科長
4	遠藤 知里	保育科長
5	井上 幸子	音楽科長
6	大石 哲也	大学・短大本部事務局長
7	栗田 真典	学長室課長

■外部評価委員名簿（令和8年9月11日開催外部評価委員会）

No.	氏 名	所属等
1	松浦 高之	静岡市商工会議所 常務理事
2	岡山 卓史	静岡市役所 総合政策局長
3	中村 大輔	静岡県教育委員会 教育政策課長